

## 学長のコラム

### 復活を遂げた阿蘇シンポジウム

第 40 回阿蘇シンポジウムが 7 月 26 日・27 日に阿蘇リゾート グランヴィリオホテルで開催された。このシンポジウムは（財）化血研が主催し、微生物学、免疫学、分子遺伝学を中心とした基礎ならびに臨床研究に関して、全国から専門の研究者を招聘して最新の研究発表と討論を行うもので、1977 年から毎年開催され、全国的にも評価の高いシンポジウムであった。残念なことに 2016 年の熊本地震に加え、化血研を取り巻く環境の変化によって 3 年間にわたり休会であったが、今回 4 年ぶりの開催となった。

今年のテーマは「がん、免疫、感染症研究のフロントライン」（司会：渡邊 武、西村 泰治、満屋 裕明）と題して、各領域をリードする 11 人の演者の講演を聴く機会を得た。主催者によると定員の 150 名を上回る参加希望があり、最終的に 170 名を越える出席があったとのこと。県内はもとより、九州各県、関西、関東を含め、全国から多くの参加者があり、待ちに待ったシンポジウム開催という雰囲気でも熱気に溢れていた。困難を乗り越えて開催に漕ぎつけた化血研関係者の皆様に心から敬意を表したい。

いずれの講演も我が国における生命科学のレベルの高さを裏付ける最先端の内容であったが、とりわけ私が興味をもったのは、チェックポイント阻害剤などのがん免疫療法の治療効果と今後の展望に関する北野滋久医師（国立がん研究センター中央病院 先端医療科）やリキッドバイオプシーで注目を集めている体液診断とエクソソームに関する落谷孝広教授（東京医科大学医学総合研究所 分子細胞治療研究部門）のお話であった。若手研究者では、がん悪液質のメカニズム解明を目指して、担がん動物における全身代謝経路の変化についてマルチオミクス解析を行うことで悪液質の宿主要因を明らかにしようという河岡慎平特定准教授（京都大学 ウィルス・再生医学研究所 臓器連関研究チーム）の試みがユニークで、今後の展開に大いに期待が持てた。

第 1 日目の懇親会では、演者のお一人である河本宏教授（京都大学 ウィルス・再生医学研究所 再生免疫学分野）率いるロックバンド”ネガティブセレクトション”の演奏で大いに盛り上がった。写真は、ゲストボーカルの満屋裕明先生（国立国際医療研究センター 研究所長）とのセッション、長髪（かつら）のギター奏者が河本教授、かぶりつきで踊っているのは司会のお一人、渡邊武先生。



## 8 月・9 月・10 月の主な行事予定

8/29 (木)	私大協九州支部初任者研修 (~8/30) 大邱保健大学交換研修生 8 名派遣 (~9/10) (※看護学科 4 年生 1 名 9/1~9/10 派遣) 科研費申請書の書き方講習会
8/30 (金)	情報セキュリティ研修会
9/ 6 (金)	第 1 回 利益相反に関する研修会
9/ 7 (土)	コンケン大学交換研修生 6 名派遣 (~9/20) 地域連携/百まで生きる覚悟「身じまい」の作法
9/11 (水)	銀杏学園 理事会
9/12 (木)	教職員旅行※日帰り、宿泊コース (~9/13)
9/15 (日)	地域連携/第 4 回 重度肢体不自由児のための ICT を活用したコミュニケーション支援講座 (※9/16 は第 5 回)
9/19 (木)	第 1 回 ハラスメント防止研修会 第 1 回 FD セミナー、基礎レポート I 報告会
9/20 (金)	教員会 (認定) リハビリテーション学科 合同就職説明会
9/21 (土)	私大協ボーリング大会
9/24 (火)	後期ガイダンス、学部卒業式
9/25 (水)	後期授業開始
9/27 (金)	修了式 (認定)
9/28 (土)	保護者会
10/ 1 (火)	辞令交付式 (予定)
10/ 6 (日)	地域連携/城北校区秋まつり「ふれあいの日」
10/16 (水)	動物慰霊祭
10/19 (土)	杏祭
10/26 (土)	地域連携/ふれあいフェスタ in ぼくぶ (~10/27)
10/30 (水)	インフルエンザワクチン接種 (予定)

## 令和元 (2019) 年度

### 助産別科臨地実習適格認定書授与式

8 月 2 日 (金)、助産別科臨地実習適格認定書授与式が行われました。臨地実習受講要件を満たした助産別科 13 期生 20 名に対して竹屋学長から認定書が授与されました。また、河瀬事務局長からお祝いの言葉もいただきました。入学後 4 か月の学修の成果が認められ、いきいきとした表情で宣誓することができていました。今後、助産学実習、地域母子保健実習において、教室での学びを実践に活用していくこととなります。ケアの対象や実習指導者との関わりの中で、専門的知識・技術はもちろん、豊かな人間性も育んでいけるよう願っています。(文責：助産別科長 原田 なをみ)



## ブックレット紹介

7 冊目のブックレット「作業療法士ってすばらしい～熊本の未来を担う作業療法士の活躍」が完成しました。(文責：企画課)



## ピア・サポーター&プチ・サポーター養成講座開催

7月7日(日)養成講座を開催し、プチ・サポーター39名、ピア・サポーター44名が参加しました。オープンキャンパスでの活動を想定したロールプレイや、各学科・専攻の特色をまとめ、資料として完成させる作業を行いました。真剣に取り組む姿には、高校生や保護者の方へ本学の良さをお伝えしたいという熱い思いが感じられました。

(文責:学生相談・修学サポートセンター)



## 高校生の一日看護学生体験

熊本県看護協会の依頼を受けて、7月30日(火)の午後、高校生の一日常護学生体験を実施しました。当日は猛暑の中、熊本県下12の高校から3年生15名、2年生8名、計23名の参加がありました。まず、3103講義室で模擬授業「新生児の看護」を体験、その後4階の3406実習室で「新生児の観察」と「新生児の沐浴」の技術演習を体験、最後に当日受付や技術演習を手伝ってくれた看護学科の3年生4名と4年生2名との交流会を行ないました。参加者のうち10名は21日(日)の本学のオープンキャンパスにも参加したとのことで、アンケート(県看護協会実施)では、全員が「大変有意義だった」と回答しており、「熊本保健科学大学を第一志望校としていて助産師になりたいから参加した」「是非この学校に入学したいと思った」「実際に大学生の話を聞いてよかった」など、緊張の中にも楽しく体験でき、大学で学ぶことの魅力を感じてもらえたようでした。(文責:看護学科長 羽田野 花美)



## 学部長表彰(課外活動賞)表彰式

7月8日(月)に学部長表彰式をおこない、檜原学部長より賞状と副賞が贈呈されました。

○渡邊 風花さん(リハビリテーション学科3年) ※写真右

昨年開催された秋季九州学生スポーツ射撃選手権 10mエアライフル立射 60発競技において好成績を挙げた。その結果、文部科学大臣賞争奪全日本学生スポーツ射撃選手権大会への出場果たした。

○田中 愛花さん(リハビリテーション学科2年) ※写真左

昨年開催された日本コロムビア全国吟詠コンクール決戦大会において準優勝という好成績を取めた。その結果、令和元年6月に販売されるCD「平成30年度日本コロムビア吟詠コンクール優秀者へ練習用・伴奏付」のアーティストとして選ばれた。

お二人の益々のご活躍をお祈りしております!(文責:学務課)



## 基礎セミナー合同発表会

7月17日(水)に、毎年恒例の1年次全学科必修科目「基礎セミナー」の合同発表会が行なわれた。3限は旧アリーナで23セミナーによるポスター発表が行なわれ、4限は50周年記念館と1300L講義室の2会場において、それぞれ4セミナーが口頭発表を行った。発表内容は今年度もまたバラエティーに富み、各セミナー独自の工夫が凝らされている。参加者は他のセミナーの取り組みに大いに興味を持ちたり、プレゼンテーションの上手さに感心したりと、楽しい学びの機会となった。(文責:共通教育センター長 東谷 孝一)



## 大邱保健大学交換研修生

7月1日(月)~7月15日(月)にかけて大邱保健大学から8名の学生が交換研修のため来学されました。学生たちは施設見学、講義聴講に加え、日本語交流、文化体験、学生間交流など様々な体験をしました。8月末に本学から派遣する交換研修生、韓国文化研究クラブの学生、教職員の皆様にも協力していただき、充実した交流ができました。

今回の学生の中には日本語に堪能な方が数名おり、学生間交流や日本語交流で研修生が本学の学生と楽しそうに交流している様子が印象的でした。最後のプレゼンテーションもほとんどの学生が日本語で行い、内容もしっかりとしたものでした。

今後とも充実した交流が行えるよう尽力していきます。(文責:国際交流委員会)



## 私の秘話ヒストリー

今回はリハビリテーション学科 言語聴覚学専攻の大塚 裕一 専攻長に投稿していただきました。

小豆、白豆、グリーンピース・・・幼少のころ、祖母の作ってくれた饅頭のはんこの材料である。祖母の作るあんこはかなりの美味であり、できたてのあんこをよく舐めてしかられた。季節ごとにあんこが変わる饅頭は本当に楽しみであった。ちなみに饅頭の皮は小麦粉を材料に作るのだが、祖母はふっくらさせるために重曹を用いていた。この量加減が難しく、入れすぎると苦しい膨らみすぎる、逆に少ないとふっくらしない。時折祖母も失敗していたのだが、その失敗も絶妙な甘さのあんこが帳消しにしていた。とどのつまり、人との関係も一部分でも特化してよい部分があれば、少々まずいところがあったとしてもそれを帳消しにしてくれるのでは・・・とかなり前向きに考えるわけである。

さて小学校3、4年生ぐらいだったであろうか、町に行ったとき祖母の作るあんこと同じ味がする饅頭をみつけた。蜂楽饅頭である。蜂楽饅頭のはんこは・・・話が長くなりそうだ。現在、BMI 34 きっと幼少からのあんこ好きが影響しているのであろう。

